SEIJO 110th
2027年　成城学園は
創立110周年を迎えます。

SEIJO UNIVERSITY

報道関係各位

2026年11月10日
成 城 大 学

成城大学文芸学部主催シンポジウム

「〈笑い／恐怖〉を翻訳する　初年次教育と研究をつないで」

2026年11月28日（土）14：00～17：00　成城大学3号館　地下1階003教室

成城大学（東京都世田谷区　学長:杉本　義行）文芸学部では、学部6学科の1年生全員を対象とした必修科目「文芸講座」を開講しています。この授業では、教員がリレー形式で講義を担当し、それぞれの専門分野や研究テーマを踏まえながらこれから始まる専門的な学びへの導入を試みています。今年度は〈笑い〉と〈恐怖〉を共通テーマとして、文学、言語、芸術、思想、歴史、社会学、文化の研究など異なる領域から、その意味や働きを考察しました。

学生は、教員が執筆した副読本を事前に読み、オンライン講義を受講した後、毎回課題に取り組む。教員はそれらにフィードバックを行い、学期末にはレポート作成へとつなげていきます。この授業は大学における学びへの導入であると同時に、研究と教育を結びつける実践でもあります。

本シンポジウムでは、まず授業担当者による実践報告を通して、「文芸講座」の教育内容や学生の反応を紹介し、初年次教育の可能性について考え、さらにゲスト講演者として翻訳家・文芸評論家の鴻巣友季子氏、詩人・比較文学研究者の管啓次郎氏、および明治大学助教の髙山花子氏をお迎えして、〈笑い〉と〈恐怖〉という主題を手がかりに、翻訳について議論を深めていきます。

ここでいう翻訳とは、単に言語を置き換える営みではなく、異なる文化や時代、学問領域、さらには研究と教育を結びつけ、新たな理解を生み出す実践として翻訳を捉えていきます。〈笑い〉や〈恐怖〉は、社会や文化によって異なる形をとりながら、人びとの経験や想像力を豊かにしてきました。そうした主題を通して専門研究が教育へと開かれ、また教育が研究を活性化する場となることを目指していきます。

翻訳や文学・文化研究に関心をもつ学生・研究者はもとより、広く一般の方々にも参加いただき、〈笑い〉と〈恐怖〉をめぐる対話を共有できれば幸いです。

◇講 演 会 概 要◇



【 日　時 】 2026年11月28日（土）14：00～17：00（開場13：30）
【 会　場 】 成城大学3号館　地下1階003教室
【スケジュール】 第1部　初年次教育としての「文芸講座」
第2部　＜笑い／恐怖＞、翻訳、研究
講演①　＜笑い＞「わらいはえらい悲劇か喜劇かそれが問題だ」
鴻巣　友季子氏（翻訳家・文芸評論家・日本文藝家協会常務理事）
講演②　＜恐怖＞「怖くない話がだんだん怖くなる内田百閒その他の作家たち」
管　啓次郎氏（詩人・比較文学研究者・明治大学教授）
ディスカッション　髙山　花子氏（明治大学助教・フランス思想）
ほか、文芸学部より各分野教員登壇予定
【 お申込み 】 https://www.seijo.ac.jp/events/cvt4qu000001f729.html
【 参加費 】 無　料
【 お問合せ 】 成城大学文芸学部 Mail:bungei55@seijo.jp
【 諸注意 】 当講演は自由席となります。
講演内容の録画・録音、写真撮影は固くお断りいたします。
講演中の飲食はご遠慮ください。但し、ペットボトル・水筒など蓋つきのお飲み物はお持ち込みいただけます。

◇講 師 紹 介◇

講演① <笑い>

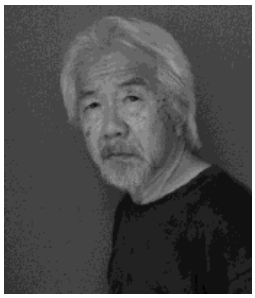
鴻巣　友季子氏：こうのす　ゆきこ（翻訳家・文芸評論家・日本文藝家協会常務理事）
おもな翻訳に『嵐が丘』（エミリー・ブロンテ、新潮文庫 2003 年）『恥辱』（J・M・クッツェー、ハヤカワ epi 文庫 2007 年）『風と共に去りぬ』（マーガレット・ミッチェル、新潮文庫 2015 年）『誓願』『老いぼれを燃やせ』（マーガレット・アトウッド、早川書房 2020 年・2024 年）『灯台へ』（ヴァージニア・ウルフ、新潮文庫 2024 年）『ほんのささやかなこと』『あずかりっ子』（クレア・キーガン、早川書房 2024 年・2025 年）著作に『翻訳教室』（筑摩書房 2012 年）『翻訳ってなんだろう？』（筑摩書房 2018 年）『文学は予言する』（新潮選書 2022 年）『なぜ日本文学は英米で人気があるのか』（ハヤカワ新書 2025 年）『英語と日本語、どうちがう？』（NHK 出版 2025 年）『小説、この小さきもの』（朝日新聞出版 2025 年）などがある。



© cedric deradoorian

講演② <恐怖>

管　啓次郎氏：すが　けいじろう（詩人・比較文学研究者・明治大学教授）
明治大学教授。詩人、比較文学研究者。おもな詩集に『数と夕方』（左右社 2017 年）『犬探し／犬のパピルス』（インスプリプト 2019 年）『一週間、その他の小さな旅』（コトニ社 2023 年）、著作に『本は読めないものだから心配するな』（左右社 2009 年、新装版ちくま文庫 2011 年）『斜線の旅』（インスクリプト 2011 年、読売文学賞）『本と貝殻：書評/読書論』（コトニ社 2023 年）、小説集に『ヘトロトピア集』（コトニ社、2024 年）、翻訳に『こどもたちに語るポストモダン』（ジャン＝フランソワ・リオタール、筑摩書房 1998 年）『星の王子さま』（サン＝テグジュペリ、角川書店 2011 年）『スティーヴン・クレイン全詩集』（コトニ社 2025 年）などがある。



© Dirk Skiba

【ディスカッション登壇】

髙山　花子氏：たかやま　はなこ（明治大学助教・フランス思想）
明治大学助教。フランス思想研究者。著書に『モーリス・ブランショ――レシの思想』（水声社 2021 年）『鳥の歌、テクストの森』（春秋社 2022 年）『世界のかなしみ――『苦海浄土』全三部試解』（月曜社 2025 年）、翻訳に『詩の畝――フィリップ・ベックを読みながら』（ジャック・ランシエール、法政大学出版局 2024 年）『文学時評 1941-1944』（共訳、モーリス・ブランショ、水声社 2021 年）、論考に「誰かの夢の書き起こし」（『文藝』2025 年夏季号特集「ドゥルーズ、終わりなき生成変化」、2025 年 4 月）「インスタント・ラーメン」（『ユリイカ』2026 年 6 月臨時増刊号総特集◎中上健次生誕 80 年、2026 年 5 月）などがある。

文芸学部教員
・木下誠教授（英文学）　・赤塚健太郎教授（音楽学・舞踊学）・田本はる菜専任講師（文化人類学）
・下田和宣准教授（ドイツ哲学）　・坪野圭介准教授（米文学）・中野智世教授（ドイツ史　）

教員紹介はこちら